

## 受賞者の喜びの声

本多記念賞受賞者 竹 内 伸

私が高校生の頃には、物理の教科書・参考書にK S 磁石の発明者として本多光太郎の名が載っていたのを今でも覚えている。大学を卒業してすぐ研究生生活を送った金属材料技術研究所では茅誠司先生の愛弟子の田岡忠美先生や本多光太郎先生のお孫さんである故本多竜吉氏の薫陶を受け、東京大学物性研究所に移ってからは東北大で本多光太郎先生の近くにおられた故鈴木平先生のお世話になるなど、本多光太郎先生にゆかりのある多くの方々の影響を受けてきた。また、東大を定年後に 10 年にわたり教育・研究に携わり、現在学長を拝命している東京理科大学の初代学長が本多光太郎である。そのようなわけで、私の長年の研究・教育年生活の中で、年とともに「本多光太郎」の存在は自ずと私の中で非常に大きくなっていった。そのような私にとって、このたび本多記念賞受賞の栄誉を賜ったことは、ひと際感慨深いものがある。誠に研究者冥利に尽きると言うべきであろう。

本多フロンティア賞受賞者 高 木 英 典

2月23日の朝、本多記念財団の方から受賞決定の電話を戴きました。心構えがなく、正直に言うと「えっ」と言う驚きが先に立ってしまいましたが、落ち着くにつれ、徐々に喜びの気持ちが大きくなってきました。東大の研究室に加えて、理研に研究室を構えるようになってから7年になります。理研の方の研究室は理研の三太郎と称された本多先生の研究室の流れを汲んでおります。私は、そのことを誇り思い、研究室の名前に「磁性」という「本多の系譜」を示す言葉を意識して残し、励みとして来ました。今回の受賞は、理研の研究室もようやくここまで来た、という感慨と、同時に、「本多の系譜」との不思議な縁を強く認識させるものでした。感慨と縁が受賞の喜びの気持ちをさらに特別なものにしてくれた事は言うまでもありません。

環境エネルギー問題の解決、持続発展可能な社会の構築といった観点から、

物質科学には革新的な機能の創成が求められています。賞を戴いた相関電子相の研究はかなり基礎的な色彩の濃いものですが、そこには新しい原理に基づいた真に革新的な機能発現の可能性が秘められています。この受賞を励みに、革新的な相関電子機能材料が発信できるよう、さらに注力・精進したいと存じます。

末筆で恐縮ではありますが、受賞にあたり、理研と東大、二足のわらじの研究生活を支えてくださっている同僚、学生、スタッフ、家族、そしてこのような栄誉を与えてくださった本多記念財団の皆様に、厚く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

#### 本多フロンティア賞受賞者 宝 野 和 博

仙台で学部・修士を修了し、また金研で助手として研究者としてのキャリアをスタートさせていただいた私にとって、本多記念会から賞をいただけることには格別の思いがあります。本多フロンティア賞は本年で6回目という比較的歴史の新しい賞ですが、過去の受賞者の方々をみますと大きな発明・発見により材料科学の歴史に名前を刻まれた方々であります。その中で、私の今回の受賞理由である「金属材料のナノ組織と特性」という蓄積的基礎研究をも対象としていただけたことを身に余る光栄と思っております。推薦者ならびに選考委員の先生方のご期待に添えるよう、今後も金属系材料の発展に微力を尽くす所存です。また受賞理由となった業績に貢献していただいた多くの共同研究者とこれまでの大学院生に心からお礼を申し上げるとともに、1995年以來すばらしい研究環境を提供していただいた物質・材料研究機構に感謝いたします。

#### 本多記念研究奨励賞受賞者 岸 田 恭 輔

この度は本多記念研究奨励賞という非常に栄誉ある賞を頂き、たいへん光栄に存じます。私はこれまで一貫して結晶塑性学、弾性論、回折結晶学などの結晶物性学の基礎に立脚して、金属間化合物材料の塑性変形機構をはじめ

とする、各種結晶性材料の結晶構造やマイクロ欠陥構造と、力学特性および機能特性の相関解明に関する研究に取り組んでまいりました。このような研究の成果を評価していただいたことは、私にとってたいへん励みとなります。今後も、この榮譽に恥じぬよう、よりいっそうの努力を重ね、研究活動に邁進して参ります。最後に、この賞を頂くにあたり、これまでの研究活動をご指導いただいた先生方、また選考に際しご尽力いただいた先生方にこの場を借りて御礼申し上げます。ありがとうございました。

#### 本多記念研究奨励賞受賞者 柴田直哉

この度は、大変榮譽ある賞を賜り、真に有難うございました。材料研究を志す身として大変光榮でありますと共に、責任も重大であると身の引き締まる思いです。現在、材料研究分野は我が国の直面する様々な課題への突破口を切り開く分野として、非常に高い期待を背負っております。我々の使命は、このような社会の要望に全力で答えつつ、同時に脈々と続く材料学の基礎的發展を追求することにあります。この2つは近景としては異なるベクトルのように見えても、遠景としては必ず一つに収斂するものと考えています。特にナノスケールの現象を利用した新規材料開発を行うためには、ナノサイエンスの基礎的知識が不可欠になります。材料基礎研究の追求の先にこそ新しい材料創成の道が開かれるものと信じ、今後ともナノスケールの現象と機能発現の本質的理解を目指した研究を行っていく所存でございます。最後に、これまで多大な御指導、御支援を賜りました、佐久間健人先生、幾原雄一先生、山本剛久先生に心より御礼申し上げます。

#### 本多記念研究奨励賞受賞者 松田康弘

研究室配属になった大学4年生から博士課程までの6年間、東北大学金属材料研究所で過ごしました。毎日、本多先生の銅像の前を通過しておりました

当時は、まさか自分が本多先生の名前を冠した賞をいただくことが出来るとは思ってもみませんでした。今回受賞の対象となった研究は、放射光 X 線とパルス強磁場を組み合わせることで、非常に強い磁場中での X 線分光を可能にし、その実験技術を磁性体の電子状態解明に応用したものです。磁性材料の機能解明には電子状態を知ることが重要ですが、強磁場中の電子状態を調べる方法は従来あまりありませんでした。新しい実験技術の開発を評価していただき、今回の賞をいただけたことに大変感謝致しております。また、「今が大切」とは、本多先生のお言葉ですが、学生時代から今に至るまで自分を鼓舞する際に大変助けられてきました。賞の名の通り今回の受賞を励みにして、今後ますます研究の発展にむけて精進してまいりたいと存じます。